

「medicina」第18巻 総目次

1981年 第1号～第13号

数字は通巻頁数, () 内は号数, 12号は臨時増刊特集号です.

〔今月の主題〕

糖尿病診療の現況 (1)

糖尿病の概念	後藤 由夫	6
糖尿病の疫学—WHO による糖尿病血管障害の国際比較研究を中心に	三木 英司	8

〈発症機序〉

遺 伝	三村 悟郎	11
Virus 感染	林 皓三郎	14
自己免疫	平田 幸正	16
インスリン感受性と受容体	繁田 幸男	18
Low insulin responders	小坂 樹徳	22
インスリン以外の膵ホルモン	井村 裕夫	24

〈検 査〉

ブドウ糖負荷試験—新たに提案された75 gGTTを中心に	羽倉 稜子	26
ヘモグロビン A _{1c}	中山 秀隆	30
血糖の自己測定	田嶋 尚子・池田 義雄	34

〈合併症〉

合併症の進展	星 充	36
網膜症(カラグラフィ)	林 正雄	40
神経障害	松岡 健平	42
腎症(カラグラフィ)	柴田 昌雄	44

〈治 療〉

食事療法	川手 亮三	46
インスリン治療の原則	松田 文子	49
運動療法	北村 信一	52
糖尿病性昏睡	坂本 信夫・堀田 饒	54
人工膵臓	菊池 方利	58
スルフォニル尿素剤治療の現況	石渡 和男	62
進行した糖尿病性網膜症の治療	清水 昊幸	64

〈座談会〉

糖尿病治療の展望	馬場 茂明・赤沼 安夫	67
垂井清一郎・葛谷 健		
今月の主題・理解のための10題	葛谷 健	78

心不全の動向 (2)

心不全の概念と分類	伊藤 良雄	190
〈心臓のはたらき〉		
心臓収縮のメカニズム	入内島十郎	192
心筋のエネルギー産生系	香川 靖雄	194
心臓パフォーマンスの指標	細田 瑛一	196
〈心不全の病態〉		
心原性ショック	勝山一貴世・山本 亨	198

うっ血性心不全	安田 寿一	201
急性右心不全	高島 豊	204
心不全とカテコールアミン	山崎 昇	206

〈心不全と臓器相関〉

心不全と肝臓	戸嶋 裕徳・緒方 康博	210
心不全と腎臓	浅野 泰・草野 英二	212
心不全時の冠循環	加藤 和三・相澤 忠範	215
心不全と不整脈	早川 弘一・高山 守正	218

〈心不全の診断〉

診察所見	日野原重明	222
胸部X線像	松山 正也	224
モニター法	鈴木嘉茂・他	227

〈心不全の治療〉

ジギタリス剤の使い方	佐藤 友英	231
β促進剤	上羽 康之・伊藤 芳久	234
ドーパミン	藤田 達士	236
利尿薬	黒岩 昭夫	238
末梢血管拡張薬	木全 心一	240
補助循環の現況	古田 昭一	246

〈座談会〉

心不全にどう対処するか	宮下 英夫・関口 守衛	
	新井 達太・太田 怜	251
今月の主題・理解のための10題	太田 怜	262

肺癌—最近の知識 (3)

肺癌の疫学	平山 雄	362
肺癌の組織分類	林 豊・君塚 五郎	365
集団検診—その問題点	服部 正次	372
〈肺癌の画像診断〉		
X線所見の特徴	難波 煌治	376
肺癌診断とCT	松延 政一・寺松 孝	382
ゼロトモグラフィ	西脇 裕	386
気管支造影の特徴	小野 良祐・池田 茂人	392
アイソトープによる診断	飯尾 正明・鈴木 恒雄	398

〈肺癌の形態学的検査〉

気管支ファイバースコープの最近の進歩	池田 茂人・他	404
生 検	林 忠清・他	410

〈肺癌の病型と特徴〉

早期肺癌	河野 通雄・高田 佳木	416
小細胞癌	渡辺 昌平・長尾 啓一	420
肺胞上皮癌	富田 正雄	422

〈肺癌の合併症〉

肺癌の異所性ホルモン産生		
--------------	--	--

	阿部 薫	426
癌性胸膜炎		
	泉 三郎・吉良 枝郎	428
癌性リンパ管炎		
	田村 昌士・小室 淳	432
癌性ニューロマイオパチー		
	古和 久幸	436

〈肺癌の治療〉

手術療法	成毛 韶夫	438
放射線療法	砂倉 瑞良	444
化学療法	木村 郁郎	446
免疫療法	螺良 英郎・香川 和夫	448
集学的治療	仁井谷久暢	450

〈座談会〉

肺癌診療の最先端	池田 茂人・末舛 恵一	
	仁井谷久暢・金上 晴夫	453
今月の主題・理解のための10題	金上 晴夫	462

臨床栄養学—最近の進歩 (4)

今日における栄養の諸問題	阿部 達夫	570
〈トピックス〉		
寿命と栄養	林 伸一・村上 安子	572
免疫と栄養	鈴木 秀郎	574
肥満の原因と治療	片岡 邦三・鈴木 彰	577
ビタミンの再認識	森内 幸子	580
電解質摂取の問題点	和田 孝雄・山下 光雄	582
Dietary fiber の生理作用と効果	印南 敏	586
過酸化脂質と栄養	山崎晴一郎・上田 正人	590
アルコールと栄養	石井 裕正	592

〈今日における食事療法〉

腸疾患	安部井 徹	594
高血圧	嶋本 喬・小町 喜男	596
心筋梗塞急性期	平盛 勝彦・斉藤 宗靖	598
高脂血症	中村 治雄	601
ネフローゼ症候群	波多野道信・高橋 進	604

腎不全	平田 清文	606
糖尿病	平田 幸正	608
肝疾患	上野 幸久・岡田 正	610
胆道系疾患・脾疾患	内藤 聖二	612
消化性潰瘍	細田 四郎・中川 雅夫	614

〈人工栄養法—経静脈栄養法と経腸栄養法を中心として〉

最近の進歩	小山 眞	616
適 応	大柳 治正・斎藤 洋一	619
合併症	山崎 芳郎・岡田 正	622

腎不全のある場合	比田井 耕	624	鼻出血のプライマリ・ケア	小林 武夫・他	814	組織特性	小林 利次	1132
肝不全のある場合	武藤 泰敏・高橋善弥太	626	女性性器出血のプライマリ・ケア	寺尾 俊彦・尾池 純子	817	装置の選び方	伊藤 健一	1136
消化管瘻のある場合	松原 要一・岩淵 真	628	今月の主題・理解のための 10 題	岡部 治彌・金上 晴夫	821	おとし穴	片倉 景義	1138
消化器外科の術前術後	碓井 貞仁・小越 章平	630	膠原病—最近の考え方 (6)			〈臨床診断〉		
癌治療に並行して	日置紘士郎・他	632	膠原病—今日の概念	塩川 優一	930	びまん性肝疾患	朝井 均	1141
〈座談会〉			—臨床の立場から	京極 方久	932	肝 癌	秋本 伸	1146
今日における栄養の諸問題	細谷 憲政・大国 真彦	635	—病理学的な立場から	東條 毅	936	胆嚢癌・胆管癌	安田 是和・柏井 昭良	1150
今月の主題・理解のための 10 題	阿部 達夫	646	〈膠原病の病態と免疫異常〉			脾 癌	稲葉 瑞江・福田 守道	1154
出血とその対策 (5)			液性免疫	本田 正明・坂根 剛	940	脾 腫	古賀 孝	1159
止血のメカニズム	藤巻 道男	746	細胞性免疫	恒松徳五郎	946	腎 癌	棚橋 善克	1162
〈吐血・下血〉			〈膠原病へのアプローチ〉	安倍 達	950	後腹膜腫瘍 (副腎を含む)	東 義孝	1166
原因疾患の臨床統計	外山久太郎	750	ベッドサイドでのみかた	本間 光夫	954	動脈瘤	平敷 淳子・他	1170
出血量と重症度	川井 啓市・他	752	検査のすすめ方		957	膀胱癌・前立腺癌	齊藤 雅人・大江 宏	1175
緊急内視鏡診断	竹本 忠良	754	〈膠原病の診断基準〉			子宮・付属器腫瘍	小林 充尚	1180
急性大量出血への対応	松枝 啓	756	診断基準の功罪—使い方の注意点			〈超音波の新しい応用〉		
—緊急措置と治療法の選択	草野 正一	760	診断基準一覧表			腹部腫瘍における超音波映像下の		
血管造影による診断と治療	真玉寿美生	762	〈膠原病とその周辺疾患〉			吸引細胞診	唐沢 英偉	1185
食道静脈瘤出血	鎌田 武信	765	全身性エリテマトーデス	横張 龍一	970	超音波誘導を用いた穿刺造影法	—PTC・PTBD・PTP・脾管造影	万代 恭嗣・他 1188
急性出血性胃 (十二指腸)	赤坂 裕三	768	強皮症	西海 正彦・伊藤 宗元	974	術中超音波検査	山下 裕一・森岡 恭彦	1190
粘膜病変	平尾 雅紀	770	多発性筋炎と皮膚筋炎	橋本 博史	976	超音波内視鏡	福田 守道・中野 良昭	1192
経内視鏡的止血法	水島 和雄・並木 正義	772	Sjögren 症候群	美田 誠二・入交昭一郎	979	超音波 CT	高木八重子・他 1196	
—電気凝固法	田島 強・喜田 剛	774	Overlap 症候群と MCTD	宮脇 昌二・他 982	腹部におけるドプラ法	宮武 邦夫・他 1198		
—高張 Na-Epinephrine 液局注法	福井光治郎	777	成人発症スチル病	谷本 潔昭	986	超音波顕微鏡	伊東 紘一・植野 映	1202
便潜血反応の臨床的意義			リウマチ多発筋痛	近藤 啓文	988	〈鼎 談〉		
〈座談会〉			好酸球性筋膜炎	宮城 憲一・井上 光洋	990	超音波と癌の診断	竹原 靖明・平田 経雄	
消化管出血の臨床—新しい止血法を中心に			〈膠原病の臓器病変のみかた〉			今月の主題・理解のための 10 題	伊東 紘一	1205
平塚 秀雄・木村 邦夫			皮膚病変	植木 宏明	993	心エコー法の現況 (8)		
平尾 雅紀・比企 能樹			関節病変	橋本 明	998	〈基礎知識〉		
岡部 治彌		781	呼吸器病変	中山 昇二	1002	原理と装置の選び方	尾本 良三	1318
〈血痰・咯血〉			心血管病変	伊東 盛夫・山口 雅也	1005	Mモード心エコー図法の利点と欠点	羽田 勝征・坂本 二哉	1322
血痰・咯血のプライマリ・ケア	光永 慶吉・橋本 憲一	790	腎病変	長沢 俊彦	1010	心断層法の利点と欠点	田中 元直	1326
診断のすすめ方	副島 林造・原 宏紀	793	消化管病変	保科 博登・柏崎 禎夫	1012	心エコー図のおとし穴—誤診と限界	吉川 純一	1329
肺高血圧と血痰	前田 如矢	796	神経病変	古明地 智・柏崎 禎夫	1016	〈臨床診断〉		
肺出血	谷合 哲	798	〈座談会〉			弁膜の診断		
〈血 尿〉			膠原病の治療と予後			—心房弁	石川 恭三・平田 俊吉	1332
(カラグラフィ)血尿の鑑別検査	林 康之	800	市川 陽一・水島 裕			—半月弁	藤井 淳一・湊 明	1338
血尿のプライマリ・ケア	岩淵 勉	802	阿部 重人・柏崎 禎夫	1019		感染性心内膜炎	加藤 洋・吉川 純一	1346
内科的血尿	酒井 紀	804	今月の主題・理解のための 10 題	柏崎 禎夫	1028	心筋症		
小児科的血尿	山下 文雄・松尾 宏	806	腹部エコー法の現況—癌診断を中心に (7)			—肥大型	戸嶋 裕徳・陣内 重三	1350
腎出血	吉田 修・野々村光生	809	癌に対する超音波診断の現況と将来	和賀井敏夫	1126	—うっ血型	琴浦 肇・渡部 良次	1354
下部尿路出血	小川 秀彌	812	〈基礎知識〉			虚血性心臓病 (心筋梗塞を含む)		
〈境界領域〉			原 理	入江 喬介	1129	—診断法としての役割	井上 清・植田 桂子	1358

一心機能の面から	
遠藤 哲・真柴 裕人 1364	
心室中隔の診断	
延吉 正清・西村 健司 1368	
先天性心疾患	
一中隔欠損	
日比 範夫・神戸 忠 1374	
一大血管の異常	
吉岡 史夫・加藤 裕久 1378	
心臓ならびにその周辺の腫瘍	
吉田 清・吉川 純一 1384	
心室瘤と動脈瘤	
別府慎太郎 1388	
心臓疾患—いわゆる echo-free space	
について	
和田 敬・本田 守弘 1392	
〈超音波の新しい応用〉	
コントラスト心エコー法	
天野 恵子 1399	
ドブラ法 榊原 博・宮武 邦夫 1402	
〈座談会〉	
このエコー図から何がわかるか	
吉川 純一・坂本 二哉	
永沼万寿喜・太田 怜 1406	
今月の主題・理解のための 10 題	
石川 恭三・金光 弘 1420	
ウイルス肝炎のトピックス (9)	
肝炎研究の歴史	織田 敏次 1504
〈肝炎ウイルスの本態〉	
肝炎ウイルス A, B	
森次 保雄 1510	
非 A 非 B 型肝炎ウイルスおよび	
関連抗原抗体系	
藤松 順一・志方 俊夫 1514	
〈ウイルス肝炎の臨床〉	
A 型肝炎の早期診断	飯野 四郎 1516
A 型肝炎の臨床と予後	谷川 久一 1518
HBs 抗原 carrier の予後	
古田 精市・赤羽・賢浩 1522	
非 A 非 B 型肝炎の臨床	鈴木 宏 1526
〈ウイルス肝炎の病態〉	
輸入肝炎と肝炎ウイルス	
藤野 信之・小幡 裕 1528	
劇症肝炎と肝炎ウイルス	
高橋善彌太・清水 勝 1532	
ウイルス肝炎の免疫病理	
山本 祐夫 1534	
肝硬変における肝炎ウイルスと	
アルコール	
武内重五郎・蓮村 靖 1536	
〈ウイルス肝炎の予防〉	
肝炎ウイルスの消毒	遠山 博 1538
A 型肝炎の予防	
荒川 泰行・勝原 徳道 1540	
B 型肝炎ワクチン	志方 俊夫 1542
抗 HBs ヒト免疫グロブリン (HBIG)	
—急性 B 型肝炎発症に対する予防効果と	
その限界	
大林 明・坂本 久浩 1544	
B 型肝炎ウイルスの母児感染遮断	
矢野 右人 1548	

〈慢性 B 型肝炎の治療〉	
インターフェロンおよび	
インターフェロン誘起剤	
海老名卓三郎 1550	
インターフェロン療法	
服部 信・他 1554	
Adenine Arabinoside 療法	
渡辺 省三・市田 文弘 1556	
免疫抑制療法	
太田 康幸・日野 寿子 1560	
免疫賦活療法	
井上 恭一・佐々木 博 1564	
〈座談会〉	
ウイルス肝炎をめぐる最近の問題点	
瀧野 辰郎・鈴木 司郎	
西岡 幹夫・藤沢 洸 1567	
今月の主題・理解のための 10 題	
藤沢 洸 1578	
脳循環の基礎と臨床 (10)	
〈前 談〉	
脳循環をめぐる諸問題	
後藤 文男・坪川 孝志	
田崎 義昭 1676	
脳循環研究の進歩	相澤 豊三 1690
〈脳循環の生理〉	
脳循環を左右する因子	神田 直 1692
脳循環の自動調節	島津 邦男 1694
〈脳循環と代謝の測定〉	
全脳平均血流量の測定	
-N ₂ O 法について	澤田 徹 1698
局所脳循環	坂井 文彦 1700
オートラジオグラムによる	
脳局所血流—代謝測定法	
桜田 修 1702	
〈脳循環障害の成因と病態〉	
皮質枝系と穿通枝系梗塞の成因	
村井 淳志・亀山 正邦 1706	
虚血性脳疾患と血液凝固性亢進	
山之内 博 1708	
虚血性脳疾患の脳循環	
海老原進一郎・北川 泰久 1710	
虚血性脳疾患の脳代謝	藤島 正敏 1712
頭蓋内圧亢進と脳循環	
永井 肇・新田 正廣 1714	
〈脳循環障害の検査〉	
急性期の検査のすすめ方	
篠原 幸人 1717	
頭部 CT (グラフ)	高木 康行 1720
超音波血流検査—その意義	
白石 純三 1724	
OPG (眼球脈波)	
山口 武典・宮下 孟士 1728	
〈脳循環障害の臨床〉	
病型鑑別	赫 彰郎・北村 伸 1730
後大脳動脈領域梗塞症	
秋口 一郎・亀山 正邦 1734	
出血性梗塞	小林 祥泰 1736
小梗塞	鈴木 一夫・沓沢 尚之 1738
多発梗塞性痴呆	
尾野 精一・東儀 英夫 1740	
〈脳循環障害の治療〉	

血栓溶解剤—その適応を中心として	
荒木 五郎 1743	
脳循環改善剤	
深津 敦司・伊藤 栄一 1746	
虚血性脳血管障害の手術適応	
水上 公宏 1748	
今月の主題・理解のための 10 題	
田崎 義昭 1752	
白血病—最新の概念と治療 (11)	
白血病の成因をめぐって	
野村 武夫 1842	
白血病はどこまで治るか	
川島 康平・山田 一正 1844	
〈病 態〉	
染色体異常	鎌田 七男 1848
血液幹細胞	溝口 秀昭 1850
細胞回転	御供 泰治・仁田 正和 1853
CML の急性転化の病型	
坂本 忍 1856	
〈診 断〉	
初期診断	長村 重之・井口 祐三 1859
免疫学的診断法	中原 一彦 1862
急性白血病的 FAB 分類と	
芽球の形態図譜	早川 佳夫・他 1865
〈新しい概念〉	
非定型的白血病	喜多嶋康一 1870
hemopoietic dysplasia	
山口 潜 1874	
成人 T 細胞性白血病	
木下研一郎・他 1876	
hairy cell leukemia	木谷 照夫 1878
acute および chronic	
myelomonocytic leukemia	
大橋 辰哉 1880	
中枢神経白血病	藤本 孟男 1882
高齢者白血病	勝沼 英宇・他 1885
〈治 療〉	
成人急性非リンパ性白血病の DCMP	
2 段階治療	宇塚 善郎 1888
慢性白血病の治療法	
柴田 昭・藤原 正博 1894	
新しい抗白血病剤	
中村 徹・上田 孝典 1899	
免疫化学療法	大野 竜三 1902
成分輸血	武尾 宏・天木 一太 1904
骨髓移植	服部 絢一 1906
簡易無菌装置	
堀内 篤・長谷川広文 1908	
〈座談会〉	
一般病院での白血病診療	
—その問題点と課題	
下山 正徳・正岡 徹	
堀内 篤・大橋 辰哉 1911	
〈カラーグラフ〉	
トレーニング・血液像	
武藤 良知・高久 史麿 1924	
肺機能検査から疾患肺へ (13)	
肺機能検査の意義	金上 晴夫 2026
〈基礎知識〉	
肺機能検査のすすめ方	

堀江 孝至・和泉 徹 2028	ガス交換異常のとりえ方
太田 保世 2032	
〈病変部位と機能検査〉	
気道病変 佐々木孝夫 2034	
実質病変 福地義之助 2038	
間質病変 高橋 敬治・池田 英樹 2042	
肺血管病変 兼本 成斌 2046	
換気調節異常 本田 良行 2050	
〈各種肺炎患と機能検査〉	
気管支喘息	
笛木 隆三・富岡 眞一 2053	
肺炎腫 川城 丈夫・綾部 徳子 2056	
慢性気管支炎	
中島 重徳・津谷 泰夫 2058	
細気管支炎 大久保隆男 2061	
上気道閉塞 白石 透 2064	
肺胞蛋白症	
荒井 達夫・三重野龍彦 2068	
肺線維症 田村 昌士・鈴木 康之 2072	
過敏性肺炎	
金野 公郎・山口美沙子 2075	
肺塞栓症 川上 義和・山本 宏司 2078	
心疾患—MS を中心に 石川 皓 2082	
Pickwickian 症候群 谷本 普一 2086	
過換気症候群 西田 修実 2090	
小児の肺機能	
吉田 豊・坂 芳樹 2094	
呼吸不全 鶴谷 秀人 2096	
〈トピックス〉	
負荷試験 吉田 稔・関 雅彦 2100	
局所肺機能検査	
木村敬二郎・長谷川鎮雄 2104	
肺手術と肺機能 芳賀 敏彦 2106	
EIA をめぐって	
榎本 哲・堀江 孝至 2108	
〈症 例〉	
堀江 孝至・齊藤 頌 2110	
今月の主題・理解のための 10 題	
堀江 孝至 2116	
臨床医のための内視鏡—パンエンドスコープ	
／東京消化器病研究会・有志、	
関東通信病院・消化器内科	
スクリーニングで発見された病変と	
その頻度—とくに X 線検査との比較	
小沢 昭司 (1) 82	
嚥下痛・嚥下困難を訴えた例を	
検査して発見された病変	
土谷 春仁 (2) 266	
上腹部痛を訴えた例を検査して	
発見された病変 加藤 一雄 (3) 466	
吐血・下血例の緊急内視鏡検査で	
発見された病変 桜井 幸弘 (4) 650	
偶発症・人工的な変化および見逃	
しやすい部位と病変	
多賀須幸男 (5) 830	
食道のさまざまな変化	
船富 亨 (6) 1034	
上部消化管内視鏡検査における	
血管性病変 三室 淳 (7) 1222	
胃・十二指腸粘膜にみられるさ	

さまざまな表在性の変化	
北村 明 (8) 1426	
いろいろな胃癌 佐伯 克美 (9) 1584	
噴門部、幽門部周辺の病変	
服部 了司 (10) 1756	
上部消化管の潰瘍性病変の経過	
小沢 昭司 (11) 1930	
圧排・粘膜下腫瘍・処置	
池上 文詔 (13) 2122	
図解病態のしくみ	
消化器疾患／松枝 啓	
13. 過敏性大腸症 (3)—診断と治療	
(1) 85	
14. 大腸憩室症 (1)—病態生理	
(2) 269	
15. 同 上 (2)—臨床像と診断	
(3) 469	
16. 同 上 (3)—治療	
(4) 653	
休 載 (5)	
17. 胆石 (1)—コレステロール	
結石の発生機序 (6) 1037	
18. 同 上 (2)—コレステロール	
結石の内科的療法 (7) 1225	
休 載 (8)	
19. 急性膵炎の診断	
—Amylase/Creatinine Clearance Ratio	
(Cam/Ccr Ratio) の診断的特異性とそ	
の問題点 (9) 1587	
20. 肝性脳症の病態生理 (10) 1775	
21. 肝性脳症の治療 (11) 1933	
22. Parenteral & Enteral	
Nutrition (1)—飢餓と外傷時の代謝	
(13) 2125	
循環器疾患／須永 俊明	
1. 血圧に影響する因子の解析 (1) 91	
2. 高血圧発症のメカニズム (2) 275	
3. 高血圧性血管病変 その 1 (3) 475	
4. 高血圧と粥状硬化の関係	
—形態学的変化を中心としたメカニズム	
(4) 659	
5. 高血圧および高血圧性血管	
病変による主要臓器病態 (5) 833	
6. 食塩と高血圧との関係 (6) 1043	
7. 肥満と高血圧の関係 (7) 1229	
8. 低レニン性高血圧と	
Mineralocorticoid との関連 (8) 1429	
9. 高血圧とカテコールアミン	
との関係 (9) 1593	
10. 老年者高血圧症 (10) 1759	
11. 悪性高血圧症 (11) 1939	
12. 境界域高血圧 (13) 2131	
臨床薬理学	
薬物療法の考え方／中野 重行	
1. 投与量のきめ方 (1) 97	
2. 同 上 (2) (2) 281	
3. 投与間隔のきめ方 (3) 481	
4. 投与方法のきめ方 (4) 665	
5. 薬物相互作用の考え方 (1)	
(5) 839	
休 載 (6)	
6. 薬物相互作用の考え方 (2) (7) 1235	

休 載 (8)	
7. 薬物の有害反応 (1) (9) 1605	
休 載 (10)	
8. 薬物の有害反応 (2) (11) 1947	
9. 臨床薬効評価 (1) (13) 2139	
異常値の出るメカニズム	
尿検査／河合 忠	
34. 尿比重と尿浸透圧 (1) 105	
35. 尿 糖 (2) 289	
36. 尿ケトン体およびケト—シス	
(3) 489	
37. 尿胆汁色素と血清ビリルビン	
(4) 675	
38. 尿アミノ酸 (5) 849	
39. 細菌尿 (6) 1049	
40. 尿沈渣 (7) 1243	
休 載 (8)	
酵素検査／安番 昭夫	
41. 血清クレアチンキナーゼ (9) 1599	
42. 血清トランスアミナーゼ	
(GOT・GPT) (10) 1765	
43. 血清 LDH (11) 1955	
44. アルカリホスファターゼ (13) 2145	
臨床講座＝癌化学療法	
抗癌剤の生い立ち	
藤本 修一・小川 一誠 (1) 109	
癌化学療法の理論的背景	
藤本 修一・小川 一誠 (2) 293	
ヌードマウスと癌化学療法	
井上 雄弘・小川 一誠 (3) 499	
注目されている新抗癌剤	
—その 1：類縁化合物	
小川 一誠・岡部 健一 (4) 681	
同 上—その 2：新しい化合物と	
インターフェロン	
小川 一誠・羽羽 恵介 (5) 853	
癌免疫療法の現況—その 1	
江崎 幸治・岡部 健一	
小川 一誠 (6) 1053	
同 上—その 2：造血器腫瘍の免疫療法	
江崎 幸治・岡部 健一	
小川 一誠 (7) 1247	
同 上—その 3：固形腫瘍の免疫療法	
江崎 幸治・岡部 健一	
小川 一誠 (8) 1435	
肉腫の化学療法	
堀越 昇・小川 一誠 (9) 1611	
制癌剤感受性試験	
井上 雄弘・小川 一誠 (10) 1771	
卵巣癌の化学療法	
稲垣 治郎・小川 一誠 (11) 1959	
治療への条件と将来への展望	
小川 一誠・永田 隆樹 (13) 2151	
神経放射線学	
脳腫瘍 (3)—第三脳室近傍腫瘍 (傍鞍部、	
松果体部を含む)	
町田 徹・前原 忠行 (1) 117	
同 上 (4)—後頭蓋蓋腫瘍	
吉川 宏起・前原 忠行 (2) 309	
炎症性疾患 前原 忠行 (3) 509	

脳奇形

- 町田 徹・前原 忠行 (4) 697
眼窩・副鼻腔疾患
古井 滋・前原 忠行 (5) 877
脊椎・脊髄疾患
町田 徹・前原 忠行 (6) 1085

腹部単純写真の読み方

撮り方と読み方の基本

- 平松 慶博・甲田 英一 (1) 125
石灰化像
平松 慶博・甲田 英一 (2) 317
腹腔内遊離ガス
平松 慶博・甲田 英一 (3) 519
イレウス(1)―閉塞性イレウス
平松 慶博・甲田 英一 (4) 705
同 上(2)―絞扼性イレウス、麻痺性イレウスなど
平松 慶博・甲田 英一 (5) 885
腹腔内液体貯留
平松 慶博・水野 富一 (7) 1093
外 傷
平松 慶博・水野 富一 (7) 1265
急性虫垂炎
平松 慶博・水野 富一 (8) 1457
急性肺炎
平松 慶博・水野 富一 (8) 1635
腹部血管障害
平松 慶博・徳田 政道 (10) 1799
小児(1)―消化管閉塞性疾患
平松 慶博・甲田 英一 (11) 1981
同 上(2)
平松 慶博・甲田 英一 (13) 2169

画像診断と臨床

肝疾患(1)

- 秋庭真理子・多田 信平
川上 憲司 (1) 133
同 上(2)
秋庭真理子・多田 信平
川上 憲司 (2) 327
同 上(3)
能勢 俊一・多田 信平
川上 憲司 (3) 525

脾疾患(1)

- 能勢 俊一・多田 信平
川上 憲司 (4) 711

肝疾患(4)

- 北島 武之・黒田 敏道
川上 憲司 (5) 889

同 上(5)

- 北島 武之・黒田 敏道
川上 憲司 (6) 1099

腎疾患(1)

- 木戸 晃・多田 信平
川上 憲司 (7) 1271

同 上(2)

- 木戸 晃・多田 信平
川上 憲司 (8) 1465

肝外閉塞性黄疸(1)

- 仲吉 昭夫・多田 信平
川上 憲司 (9) 1643

同 上(2)

- 仲吉 昭夫・多田 信平
川上 憲司 (10) 1807

婦人科疾患(1)

- 森本 紀・多田 信平
川上 憲司 (11) 1989

休 載

(13)

目でみるトレーニング

- 新井 達太・他, 村松 準
鳥居 順三, 三輪 史朗
福田 守道・他 (1) 141
村松 準, 金沢 知博・他
小原 孝男, 三輪 史朗
下田悠一郎 (2) 335
甲田 英一・他, 村松 準・他
酒井 義浩, 鳥居 順三 (3) 531
村松 準・他, 新井 達太・他
奥平 雅彦・小原 孝男 (4) 719
村松 準・他, 金沢 知博・他
天野 秀雄・他, 平松 京一・他
(5) 899

- 村松 準・他, 石川 英一
福田 守道 (6) 1105
村松 準・他, 川嶋 正男・他
下田悠一郎 (7) 1280

- 村松 準・他, 石川 英一
北村 次男 (8) 1473

- 村松 準・他, 北村 次男
沢山 俊民, 石川 英一
小林 世美 (9) 1653

- 村松 準・他, 沢山 俊民
田邊 正也・他, 小林 世美
中村 徹 (10) 1817

- 斎藤 豊和, 村松 準・他
田邊 正也・他, 吉良 枝郎
朝田 康夫 (11) 2001

- 吉良 枝郎, 広瀬 和彦
斎藤 豊和, 北原 光夫 (13) 2176

外来診療・ここが聞きたい

- 肝障害を有する HBs 抗原持続陽性例
鈴木 宏・西崎 統 (1) 152
B型肝炎ウイルス無症候性
保持者の e 抗原陽性例
鈴木 宏・西崎 統 (2) 344
眼底検査と眼底出血
松井 瑞夫・西崎 統 (3) 538
糖尿病, 高血圧と眼底所見
松井 瑞夫・西崎 統 (4) 728
鼻出血をくり返す肝硬変
大貫 寿衛・赤塚 祝子 (5) 858
肝障害を伴う再発性胃潰瘍
大貫 寿衛・赤塚 祝子 (6) 1060
成人の難治性扁桃炎
池本 秀雄・赤塚 祝子 (7) 1252
肺炎をくり返す陈旧性肺結核
池本 秀雄・赤塚 祝子 (8) 1441
肝硬変の合併症とその処置
上野 幸久・竹越 國夫 (9) 1620
肝機能検査は正常で食道静脈

瘤を発見したとき

- 上野 幸久・竹越 國夫 (10) 1784

抗生物質の使い方(1)

- ―原因菌のはっきりしない時
島田 馨・竹越 國夫 (11) 1964

同 上(2)

- ―合併症のあるときと注意すべき副作用
島田 馨・竹越 國夫 (13) 2186

medicina CPC

労作時の息切れ、浮腫を主訴と

- する 79 歳男の例
宮沢 佑二・日野 理彦
羽田 治夫・佐川 文明
後藤 晃・春見 建一 (1) 157

- 尿路結石を長年患ひ、突然の黄
疸の出現をみた 58 歳女性例
桜井 英夫・岡野 匡雄
新田 義朗・相磯 嘉孝
唐木 一守・飯野 史郎 (3) 544

- 食思不振、乏尿を主訴とし、け
いれん発作、意識障害をきた
した 72 歳男の例
大岩 孝志・山下 秀光
小野駿一郎・三条 貞三 (5) 914

- 第 154 回呼吸器臨床談話会
びまん性肺陰影を呈する疾患に
おける経気管支肺生検 (TBLB)
の意義について(その 1)

- 谷合 哲・吉岡 一郎
関根球一郎・芳賀 敏彦
岡安 大仁・可部順三郎
工藤 翔二・松井 泰夫
古家 堯・北村 諭
鈴木 光・勝呂 長
赤柴 恒人・倉島 篤行
和泉 孝志・鈴木 俊雄 (7) 1291

- 同 上(その 2)
谷合 哲・吉岡 一郎
倉島 篤行・北村 諭
赤柴 恒人・工藤 翔二
古家 堯・芳賀 敏彦
岡安 大仁・鈴木 俊雄
松井 泰夫・可部順三郎 (8) 1483

- プライマリ・ケア
初期診断・初期治療の諸問題(1)
―あるべき医師像
阿部 正和・川久保 亮
永井友二郎 (1) 170

- 同 上(2)―開業医の使命
阿部 正和・川久保 亮
永井友二郎 (2) 350

- 集団検診の諸問題(1)
梅園 忠・山手 慎吾
日野原重明 (3) 558

- 同 上(2)
梅園 忠・山手 慎吾
日野原重明 (4) 734

- 在宅ケアの実践と問題点(1)
萱場 治・岸本 節子

井出 久・鈴木 莊一 (5) 906	破傷風の治療 中村毅志夫 (11) 2008
同 上(2)	重症腸チフスの治療 中村毅志夫 (13) 2190
萱場 治・岸本 節子	
井出 久・鈴木 莊一 (6) 1114	
私たちのみたヨーロッパのブラ	
イマリ・ケア(1)	
小野 肇・安田 勇治	
菊地 博・萱場 治	
渡辺 淳 (7) 1304	
同 上(2)	
小野 肇・安田 勇治	
菊地 博・萱場 治	
渡辺 淳 (8) 1496	
地域健康教育の諸問題(1)	
宮坂 忠夫・西 三郎	
本吉 鼎三 (9) 1662	
同 上(2)	
宮坂 忠夫・西 三郎	
本吉 鼎三 (10) 1827	
上手な自己研修のあり方(1)	
菊地 博・山手 慎吾	
鈴木 仁一・新野 稔 (11) 2014	
同 上(2)	
菊地 博・山手 慎吾	
鈴木 仁一・新野 稔 (13) 2192	

Clinical topics

成人急性白血病の薬物療法	
高久 史麿 (1) 114	
慢性骨髓性白血病の急性転化と	
その治療 高久 史麿 (2) 298	
多発性骨髄腫の治療—最近の傾向	
高久 史麿 (3) 498	
過敏性肺臓炎 町田 和子 (4) 732	
経気管支肺生検 (TBLB)	
倉島 篤行 (5) 826	
最近の酸素療法 芳賀 敏彦 (6) 1058	
未分化肺癌—とくに小細胞癌の治療	
小松彦太郎 (7) 1288	
肺線維症—その概念と病因	
米田 良蔵 (8) 1446	
発 熱 中村毅志夫 (9) 1616	
休 載 (10)	

他科のトピックス

光ファイバを用いた心臓内圧測定	
松本 博志・小林 健二 (1) 150	
ステロイド外用剤の功罪	
旗野 倫 (2) 348	
超音波内視鏡 福田 守道 (3) 556	
超音波白内障手術 馬嶋 慶直 (4) 726	
内視鏡的凍結手術 山崎 忠光 (5) 912	
最近の消化管吻合器とその問題点	
中山 隆市 (6) 1066	
膀胱腫瘍の温水療法	
岡田 清己 (7) 1286	
イアーバンク	
兵庫イアーバンク (8) 1480	
脳圧降下剤と人工血液を用いた	
脳梗塞の治療	
鈴木 二郎・吉本 高志 (9) 1660	
ヘマトポルフィリン誘導体と	
レーザ光線による早期肺癌の	
診断・治療	
早田 義博・小中 千守 (10) 1834	
塩化タリウム ($^{201}\text{Tl}-\text{Cl}$) を用い	
た子宮体癌の新しい診断法	
戸張 千年・黒沢 洋 (11) 2010	

VIA AIR MAIL/越前宏俊

これほどとは思わなかったアメ	
リカの臨床薬理の先進性、合	
理的なシステム、充実したカン	
ンファレンス、フランクな同	
僚など、その魅力のわずかず	
(4) 693	
いつ崩れるかわからない厳しい	
生活基盤。しかし1杯のコー	
ヒーと陽気なジョークでおお	
らかに研究を続ける同僚たち	
の日常	
(5) 872	
机も椅子もない診察室。パイタ	
ルサインをとるナース。グラ	
ム染色をやるレジデント。日	

本とは違う私の見たアメリカ	
の外来システムとそのレベル (6) 1076	

天 地 人

知らぬ私が悪いのか	聖 (1) 177
仲人のつぶやき	浪 (2) 301
プロとアマ	天 (3) 501
マスコミの中の人間	越 (4) 685
信 心	天 (5) 865
つき合い酒	浪 (6) 1069
職人芸がなぜ悪い	聖 (7) 1257
ロマンチックなカメ	人 (8) 1449
ペンは剣よりも強し	越 (9) 1627
せめて医師なら	聖 (10) 1791
4	天 (11) 1969
ヤング犯罪考	越 (13) 2157

オスラー博士の生涯/日野原重明・他

90. 定年の時期(1)—波紋を起こ	
したジョンス・ホプキンス大学での	
告別講演 (1905)	(1) 178
91. 同上(2)—ジョンス・ホプキン	
ス大学のアメリカ医学への寄与	(2) 302
92. オスラーの生涯の終焉	(3) 502
93. 病院は大学である—オスラー	
が提唱したアメリカ合衆国での新し	
い医学教育(1903年, Academy of	
Medicine, New York での講演)	(4) 686
94. 教師と学生—1892年, ミネソ	
タ大学にて	(5) 866
95. 同上(2)—1892年, ミネソタ	
大学での講演の続き	(6) 1070
96. オスラー博士の代表的講演	
—一つの生き方(1) Silliman記念講演	(7) 1258
97. 同 上(2)	(8) 1450
98. 病院は大学である—1903年,	
Academy of Medicine, New York	
での講演	(9) 1628
99. 学究生活(1)	(10) 1792
100. 同 上(2)	(11) 1970
101. 25年後に—臨床医学の教育と	
学習精神 (50歳の時のオスラー博士	
の講演)	(13) 2158